

第39回

うつのみやこども賞だより

令和4年度 4回

市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

『ジャノメ』

戸森 しるこ／作 (静山社)



令和4年9月4日

読めば
愉快だ
宇都宮

宇都宮市立図書館

UTSUNOMIYA CITY LIBRARY

～読んだ本の感想より～

- 飼育されている鳥と飼育員が話しているところがうらやましかったです。
- シンジはジャノメの声が聞こえなくなりましたが、ジャノメと仲直りできてよかったと思った。
- 動物たちが飼育員の話聞いて、うわさを確かめるところが面白かったです。
- 最後の閉園を告げる放送が流れた後のぼうやの言葉「うれしくて泣いているんだよ。」が心にひびき、感動しました。
- とても感動した。
- 人間は色々な動物と仲良く、時にはケンカできることが、この物語を読んで改めて分かった。仲直りできるのも人どうしと同じだと思った。
- シンジとジャノメの関係の変化がおもしろかったし、感動した。

『不思議屋敷の転校生』 藤重 ヒカル／作 (金の星社)

- 優乃やあかりの玲子を思う気持ちが素敵だと思った。
- 最初、ほかの学校から転校してきたと思われていた玲子さんでしたが、50年前からタイムトラベルで来ていたことが最後に分かり、おどろきました。
- さし絵だけなのに、その人物や風景が思いうかんだ。
- 玲子が顔カベの中に自分の顔もあるかもと言った時、とてもドキドキしたし、怖かった。
- 一番最初から最後まで全てのパーツがつながり、もう本当に周りの声が聞こえないくらい熱中して読めました。

『かすみ川の人魚』 長谷川 まりる／作 (講談社)

- たった1この失敗でも大きなことにつながるというのがこわかった。
- 人魚が最後どうなったのか気になった。人魚が本当にいたら、こんなことになるのかと思った。
- 人魚の世話をしているが、そこでかすみにかまれてしまう。その理由が何かを考えながら読めて、とてもおもしろかった。
- 今、川にゴミを捨てることが問題になっているから、みんなに読んでほしいと思った。

『黄色い夏の日』 高楼 方子／著 (福音館書店)

- 小谷津さんとゆりあ、やや子の関係がとても気になり、ページをめくりたくなる物語でした。
- 景介が過去と現在を行き来するところが面白かったです。
- やや子・ゆりあがどんな子で、どこから来たのか、小谷津さんとの関係は何か、不思議で楽しかった。やや子が言っていることに共感できた。
- おばあさんが書いていた日記の中身が気になった。